https://rodosoken.com/

Society trend

【研究】

学部別にみた大学生の労働組合観

若者の仕事とくらし研究会――小澤　薫・中澤秀一・村上英吾

われわれ労働総研「若者の仕事とくらし研究会」では、近年の厳しい経済状況下で、大学生が労働組合に対してどのようなイメージを持っているのかについて明らかにし、また今後の組織化に活かすために、2009年より大学生を対象にアンケート調査を実施してきた（第1回および第2回調査の結果は、『労働総研クォータリー No.75』に掲載の「大学生の労働組合観について―アンケート調査から見えるもの―」を参照）。本稿は、2010年に実施した第3回目の調査の報告である。第3回調査の特徴は、理数系の学生にも調査を実施した点である。以下では、前回調査と比較しつつ、学部別の違いに焦点を当てて分析していくことにする。

1　調査の概要

（1）調査方法について

調査は2010年1月から2月にかけて、首都圏の私立大学および静岡、新潟の国公立大学および短期大学で実施した。調査対象は研究会メンバーや調査の趣旨に賛同した大学教員の講義を受講している1～4年生である。調査方法は、授業後に第2回調査と同じ別紙の調査票を配付し、その場で任意に回答してもらい、その場で回収した。学生に対しては、回答の内容が成績等には関係ないこと、個人が特定されるような形で集計しないことを周知して実施した。

（2）回答者について

第3回調査の回答者数は1212人、うち女性は496人（40.9%）、男性は695人（57.3%）、不明が21人（1.7%）であった。表1は、これまでの調査の回答者数を示したものである。第3回調査は、第1回、第2回のほぼ2倍に当たる1212人にのぼった。男女別に見ると、女性が約4割、男性が約6割であった。学年別に見ると、1年生が276人（188人）、2年生が446人（314人）、3年生が324人（70人）、4年生が138人（32人）、大学院生が8人、不明が20人で（括弧内は第1回調査の回答者数）、第1回調査と比べて3、4年生の割合が高まり、学年別のバランスが良くなっている。

今回の調査の特徴は、理数系学部の学生に実施した点にある。学部別に見ると、社会科学系は188人（15.5%）、人文系が51人（4.2%）、教育系が88人（7.1%）、理数系が570人（47.0%）、医療・福祉系が288人（23.8%）、家政系が21人（17%）、不明が8人（0.7%）で、理数系が約半数を占めている。

以下、はじめに単純集計の結果についてこれまでの調査と比較しながら概観し、主として学部別の結果についてみていくことにしよう。

表1　調査の概略

	調査時期	調査対象	回答者計	女性	男性	N.A.
第1回	2009年1～2月	1～4年	610	408	198	4
			100	66.9	32.5	0.7
第2回	2009年4～5月	新入生	593	593	308	34
			100	51.9	42.3	5.7
第3回	2010年1～2月	1～4年	1,212	496	695	21
			100	40.9	57.3	1.7

https://rodosoken.com/

2　調査結果の概要

（1）労働組合の認知状況
～「大学の授業」が減少～

「労働組合」とはどのような組織かを知っているかどうかについては、「知っている」が369人（30.4%）、「聞いたことがある」が731人（60.3%）、「知らない」が112人（9.2%）であった。これを第1回および第2回調査と比較すると、「知っている」がそれぞれ25.7%、22.9%、「聞いたことがある」が66.9%、67.8%、「知らない」が7.0%、9.8%であったので、「聞いたことがある」がやや少なく、「知っている」が多かった。

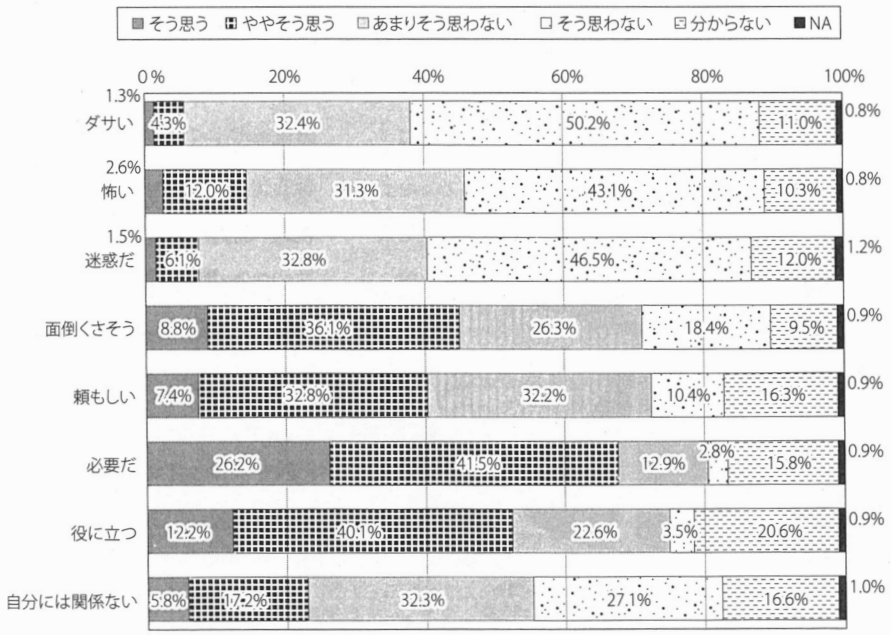
組合について「知っている」または「聞いたことがある」と回答した1100人にどこで知ったかを複数回答で聞いたところ、最も多かったのが「テレビ・ラジオのニュース等」で64.5%、次に「中学・高校の授業」が38.5%、「新聞・雑誌」が33.3%、「家族・親戚から聞いた」15.6%、「大学の授業」が14.0%、「インターネット」が10.5%であった。全体的な傾向は変わらないものの、前2回調査に比べて学年別のバランスが改善されているため、新入生に多い「中学・高校の授業」は第2回調査より減少した。「大学の授業」が減少しているのは理数系が増えたことによる影響があると考えられる。この点は後ほど詳しく分析する。

（2）労働組合に対するイメージ
～「必要だ」「役に立つ」は肯定的評価が高まり、「面倒くさそう」「自分には関係ない」は否定的評価が高まる～

組合のイメージについて、いくつかのキーワードをあげて「分からない」ないしは「そう思う」から「そう思わない」までの4段階で評価を聞いた（図1）。キーワードはこれまでの調査と同様に組合に対するマイナスのイメージとして「ダサい」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそう」という4点について、プラスのイメージとして「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」という3点について、さらに「自分には関係ない」の8つである。ここでは、同様に1～4年生を対象とした第1回調査（括弧内に記す）と比較しながら結果をみていくことにしよう。

「ダサい」かどうかについては、「そう思う」は1.3%（1.0%）、「ややそう思う」は4.3%（1.8%）、「あまりそう思わない」が32.4%（17.2%）、「そう思わない」

図1　「労働組合」に対するあなたのイメージは？



https://rodosoken.com/

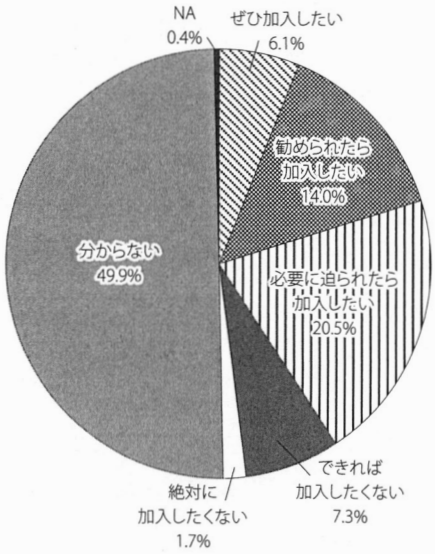
が 50.2%（61.3%）、「分からない」が 11.0%（13.6%）であり、「そう思わない」が減少し「あまりそう思わない」が増加しているものの、全体として肯定的に評価しているという点は変わらない。

「怖い」かどうかについては、「そう思う」は 2.6%（1.5%）、「ややそう思う」は 12.0%（8.4%）、「あまりそう思わない」が 31.3%（19.8%）、「そう思わない」が 43.1%（53.8%）、「分からない」が 10.3%（11.0%）であった。やはり「ダサい」と同様の傾向が見られた。

「迷惑だ」については、「そう思う」は 1.5%（0.5%）、「ややそう思う」は 6.1%（3.6%）、「あまりそう思わない」が 32.8%（22.8%）、「そう思わない」が 46.5%（54.3%）、「分からない」が 12.0%（13.1%）であった。「ダサい」や「怖い」ほどではないが、それらとほぼ同様であった。

「面倒くさそう」かどうかについては、「そう思う」は 8.8%（9.8%）、「ややそう思う」は 36.1%（25.4%）、「あまりそう思わない」が 26.3%（28.7%）、「そう思わない」が 18.4%（19.3%）、「分からない」が 9.5%（11.5%）であった。第 1 回調査より「ややそう思う」が 10 ポイントほど多くなり、肯定的評価と否定的評価がほぼ拮抗することとなった。

図 2　就職後に「労働組合」へ加入したいと思いますか？



「頼もしい」かどうかについては、「そう思う」は 7.4%（9.2%）、「ややそう思う」は 32.8%（27.0%）、「あまりそう思わない」が 32.2%（31.3%）、「そう思わない」が 10.4%（8.7%）、「分からない」が 16.3%（17.5%）であり、第 1 回調査とほぼ同様に分からないが比較的多く、それを除くと肯定的評価と否定的評価がほぼ半々となっている。

「必要だ」については、「そう思う」は 26.2%（27.9%）、「ややそう思う」は 41.5%（29.3%）、「あまりそう思わない」が 12.9%（16.9%）、「そう思わない」が 2.8%（4.6%）、「分からない」が 15.8%（15.9%）であり、第 1 回調査と比べて肯定的評価が 10 ポイント近く多い 70%近くに上った。

「役に立つ」は、「そう思う」は 12.2%（12.8%）、「ややそう思う」は 40.1%（32.1%）、「あまりそう思わない」が 22.6%（23.6%）、「そう思わない」が 3.5%（5.2%）、「分からない」が 20.6%（20.8%）であり、肯定的評価が多くなった。

「自分には関係ない」については、「そう思う」は 5.8%（3.4%）、「ややそう思う」は 17.2%（10.5%）、「あまりそう思わない」が 32.3%（30.2%）、「そう思わない」が 27.1%（33.6%）、「分からない」が 16.6%（16.6%）であり、否定的評価がやや多く、肯定的評価がやや少なかった。

（3）組合への加入意向
～第 2 回調査より加入意向が強まる～

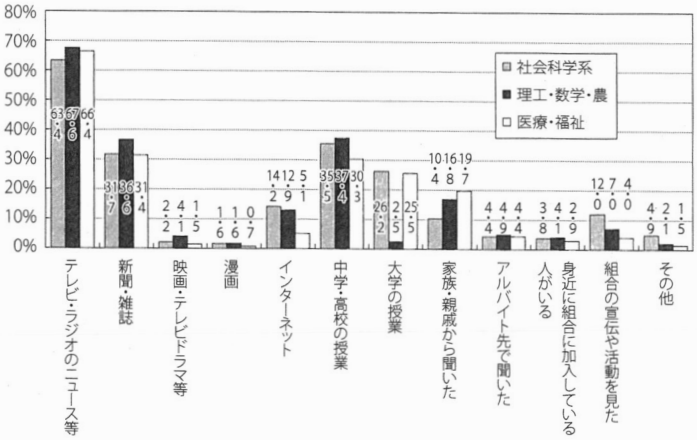
加入意向については、第 2 回調査以降選択肢を変えているため、第 2 回調査の結果（括弧内に記す）と比較しながら結果を検討しよう。

最も多かったのが「分からない」の 49.9%（45.2%）で、約半数が加入したいかどうか分からないと答えており、第 2 回の新入生調査とほぼ同様の結果であった（図 2）。

https://rodosoken.com/

それ以外の約半数のうち「ぜひ加入したい」は6.1%（3.2%）、「勧められたら加入したい」は14.0%（11.5%）、「必要に迫られたら加入したい」は20.5%（22.6%）、「できれば加入したくない」は7.3%（9.9%）、「絶対加入したくない」は1.7%（6.9%）であり、ほぼ同じ傾向であるが、第2回調査に比べるとやや強い加入意向を持っている割合が高かった。

図3　学部別「労働組合」をどこで知りましたか？



3　学部別の実態

学部は、社会科学系、人文系、教育系、理工・数学・農、医療・福祉、家政系に大きく分類した。今回の調査では、「理工・数学・農」（以下、「理数系」）が一番多く47.0%、ついで「医療・福祉」23.8%、「社会科学系」15.5%であった（表2）。

学部別に男女比をみると、男性が過半数以上を占めている学部は、「社会科学系」（72.9%）、「理数系」（80.9%）、逆に女性が過半数以上占めている学部は、「人文系」（90.2%）、「教育系」（64.0%）、「医療・福祉」（77.4%）となっており、学部によって性別の構成比が異なる。

学年をみると、「医療・福祉」では2年生が80.2%を占め、「人文系」も2年生が60.8%を占めている。「社会科学系」は3年が50.0%、教育系は1年生が87.2%を占めている。「理数系」については、1年23.3%、2年23.7%、3年33.5%、4年16.5%と幅広く分布している。

なお、本稿では比較的サンプル数が多かった「社会科学系」「理数系」「医療・福祉」の3系統を主に分析している。

表2　学部の分類

	社会科学	人文系	教育系	理工・数	医療・福	家政系	NA	合計
回答数	188	51	86	570	288	21	8	1,212
	15.5%	4.2%	7.1%	47.0%	23.8%	1.7%	0.7%	100.0%

（1）労働組合の認知状況

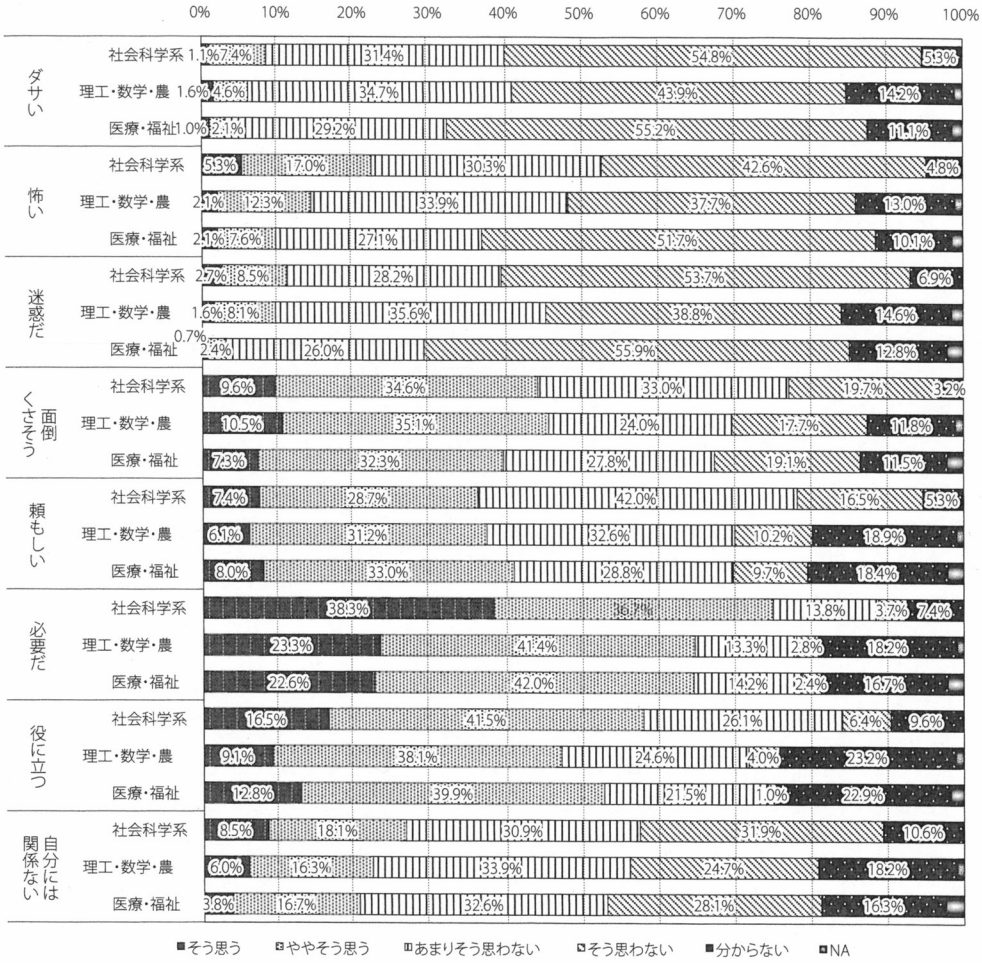
～「大学の授業」は「社会科学系」「医療・福祉」で20%強だが、「理数系」は2.5%～

学部別に組合への認知状況をみると、「知っている」と答えたのは、「社会科学系」では6割近く（56.9%）であったが、「人文系」で15.7%、「医療・福祉」で19.8%と2割を下回り、「理数系」では3割弱（28.4%）であった。一方、「人文系」や「医療・福祉」では「聞いたことはある」と答えた割合が高くなっている（それぞれ、78.4%、75.3%）。また「知らない」という回答は、「理数系」で14.6%と、全体より5ポイント以上高くなっている。

組合をどこで知ったかについては（図3）、「テレビ・ラジオのニュース等」は、「理数系」「医療・福祉」「社会科学系」で6～7割、一番低い「教育系」でも5割弱となっていて、学部を問わず学生にとって組合に触れる大きな媒体となっている。「新聞・雑誌」は、「理数系」が36.6%と高いが、他も3割前後で、

https://rodosoken.com/

図4　学部別「労働組合」に対するイメージ



学部別では大きな差はみられない。「インターネット」は、「社会科学系」14.2%、「理数系」12.9%で1割強の回答がみられるが、「人文系」では6.3%、「医療・福祉」では5.1%と、学部による差がみられる。「中学・高校の授業」は、「教育系」が68.4%と高く、ついで「人文系」54.2%となっている。「大学の授業」は、「社会科学系」が26.2%、「医療・福祉」が25.5%と高いが、「教育系」5.1%、「理数系」2.5%と低く、学部による差が大きくみられる。「家族・親戚から聞いた」は、「医療・福祉」19.7%、「理数系」16.8%であった。「アルバイト先で聞いた」は、学部を問わずほぼ4%程度で同じであった。「身近に組合に加入している人がいる」も、3～4%程度でほぼ同じであった。「組合の宣伝や活動をみた」は、「社会科学系」で12.0%と、全体より6ポイント高い。

このように「理数系」は、「テレビ・ラジオのニュース等」「新聞・雑誌」「インターネット」が高めで、「大学の授業」は低い。「社会科学系」は、「テレビ・ラジオのニュース等」「新聞・雑誌」「インターネット」「大学の授業」が高い。「医療・福祉」は「テレビ・ラジオのニュース等」「大学の授業」「家族・親戚から聞いた」が全体より高く、「インターネット」「中学・高校の授業」が全体より低くなっている。「教育系」は、「中学・高校の授業」が全体より目立って高く、「テレビ・ラジオのニュース等」「新聞・雑誌」「大学の授業」は低くなっている。しかし、「教育系」については、1年生が9割を占めているので学年による影響が強く反映していることが考えられる。

https://rodosoken.com/

（2）労働組合に対するイメージ
～「社会科学系」では、「必要だ」「役に立つ」が高い～

学生の組合に対するイメージをみると（図4）、プラス・イメージ、マイナス・イメージを問わず「理数系」「医療・福祉」で「分からない」が高く、逆に「社会科学系」は、「分からない」が低い。

マイナス・イメージについてみてみると、「理数系」では「ダサい」「怖い」「迷惑だ」で「そう思わない」が全体から5～8ポイント程度低くなっている。「医療・福祉」は、「そう思わない」が全体より10ポイント弱高くなっている。同じ「分からない」という回答が高かった「医療・福祉」に比べると「理数系」は、マイナス・イメージが強く現れている。

「面倒くさそう」は、全体的に「そう思う」「ややそう思う」の合計が高く、特に「人文系」で6割強、「教育系」で5割程度と高くなっているが、学部による差があまりみられない。

プラス・イメージについてみてみると、マイナス・イメージほど大きな差はみられず、全体的に似た傾向を示している。

「頼もしい」は、「人文系」で「そう思う」「ややそう思う」が全体より高く、「社会科学系」で「あまりそう思わない」「そう思わない」が全体より高い。

「必要だ」は、「そう思う」が「社会科学系」「人文系」で全体より10%前後高くなっている。

「役に立つ」は、「人文系」で「そう思う」「ややそう思う」の合計が7割程度で、「あまりそう思わない」「そう思わない」が1割程度と低い。

「自分には関係ない」は、「人文系」「教育系」で「そう思う」「ややそう思う」が高くなっている。

ここから「社会科学系」は、組合が頼りになるという回答は高いほうではないが、必要で、役に立つ存在としては考えているようである。逆に、「理数系」や「医療・福祉」は、「社会科学系」ほどは必要と考えていないようである。

（3）労働組合への加入意向　～加入に前向きな回答が「社会科学系」では5割弱～

学部別に就職後の組合への加入意向をみると（図5）、「ぜひ加入したい」と回答している割合が全体より高いのは「教育系」11.6%であった。「勧められたら加入したい」について全体より高いのは、「人文系」19.6%であった。「必要に迫られたら加入し

図5　学部別、就職後に「労働組合」に加入したいと思うか

https://rodosoken.com/

たい」と回答している割合は「社会科学系」で27.7%と高いが、「教育系」は9.3%と低くなっている。「できれば加入したくない」は「社会科学系」が12.2%で高い。「絶対に加入したくない」は大きくはないが「理数系」で2.5%、「社会科学系」で2.7%いる。「分からない」は「教育系」60.5%、「医療・福祉」55.9%で高い。

表3　学部別の加入意向

	理数系		社会科学系		医療福祉		その他		計	
		%		%		%		%		%
よく知らないから	122	56.0	81	49.7	131	66.2	137	54.6	471	56.3
肯定的意見	49	22.5	34	20.9	52	26.3	72	28.7	207	24.9
否定的意見	25	11.5	33	20.2	9	4.5	30	12.0	97	11.7
なんとなく	10	4.6	5	3.0	4	2.0	3	1.2	22	2.7
誤解・偏見	1	0.5	1	0.6	0	0.0	1	0.4	3	0.4
その他	11	5.0	9	5.5	2	1.0	8	3.2	30	3.6
計	218	100.0	163	100.0	198	100.0	251	100.0	830	100.0

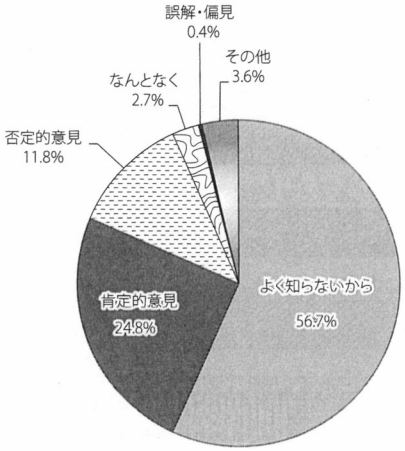
「ぜひ加入したい」「勧められたら加入したい」「必要に迫られたら加入したい」という加入に前向きな回答を合計すると、「社会科学系」47.3%、「医療・福祉」39.2%、「理数系」38.9%であった。

4　自由記述からみえてくるもの

～加入意向について「理数系」では自ら調べて判断したいが多い～

加入意向について、その理由の記入欄をアンケート用紙に設けているが、7割弱（68.5%）が回答していた。その意見を、「よく知らないから」「肯定的意見」「否定的意見」「なんとなく」「誤解・偏見」「その他」に大別すると（図6）、「よく知らないから」が最も多く、半数を超えていた（56.7%）。第1回調査の結果（47.3%）と比較すると10ポイント近く高くなっていて、第2回調査の結果（58.0%）に近くなっている。また、肯定的意見の割合は24.8%で、前回調査結果（第1回＝21.4%、第2回＝15.4%）に比べると増えている。否定的意見の割合は11.8%で、前回調査結果（第1回＝10.7%、第2回＝9.2%）と大きな違いはみられない。

図6　加入意向の理由について



次に、今回の調査で注目した学部別の差異についてみていく。表3は、問4の自由記述欄に書かれた意見を学部別に集計したものである。ここでは、「理数系」、「社会科学系」、「医療・福祉」、「その他」の4つに大別して分析した。ちなみに、自由記述欄の回答率は、「理数系」で38.2%、「社会科学系」で86.7%、医療・福祉」で68.8%であった。

いずれの学部でも共通するのが、「よく知らないから」の割合が一番多い点である。ただし、「社会科学系」で全体の平均（56.7%）よりも割合が低く5割を下回っているのに対して（49.7%）、「医療・福祉」では高く（66.2%）、「理数系」では平均に近かった（56.0%）。

また、このような「社会科学系」と「医療・福祉」との差は、肯定的意見においてもみられた（「理数系」＝22.5%、「社会科学系」＝20.2%、「医療・福祉」＝26.3%）。具体的には、「労働条件の改善などひとりではどうしようもないことに集団で立ち向かうことは必要だと思う」「深く知らないので何とも言えないが、労働者の権利を守る上で必要であり、加入する必要があると思う」（以上、「理数系」）

https://rodosoken.com/

「労働者として経営者と対等に話し合うには必要だから」「いつ自分が首を切られたり、企業にひどい扱いを受けるかわからないから」（以上、「社会科学系」）「いつ自分に必要になるか分からないから」「不当な扱いや、適切でないことを受けた場合、雇用者側に意見できるように」（以上、「医療・福祉」）など、組合の必要性を理由に挙げる意見が目立った。

自由記述では、「社会科学系」で否定的な意見が目立っていた。否定的意見を述べた割合は、全体の平均（11.7%）に対して、「社会科学系」が20.9%、「医療・福祉」が4.5%であった。具体的には、「自分の仕事時間が祝休日を犠牲にするならば加入したいとは思わない」「会社の役員側からのイメージが良くなさそう」（以上、「理数系」）「NTTのような大手でも、労使交渉を見送ったという記事を見て、加入する意味はあまりないと感じたから」「組合の加入率が低下していて、力がなくなってきていると教えてもらった」「以前610円の時給でバイトをしたことがあったから、役に立っていないのではないか」（以上、「社会科学系」）などの意見があった。社会科学系は労働組合について学んでいるためか、労働者の要求を実現するという労働組合の原点から逸脱している活動にたいして厳しい批判の目が向けられている。それが加入意向に反映しているのであろうか。

今回の調査の目的のひとつに、理数系学生の組合に対する意識がどのようなものであるかを探ることがあったが、自由記述をみる限りは、「理数系」は平均的であった。ただし、「よく知らないから」の具体的内容については、単に「知らないから」「理解してないから」と書いたのではなく、「労働組合がどういう団体かをしっかりと調べ、その上で考えたいから」「まだ仕組みが分からないから必要がどうか判断した上で加入を決める」「何をしている組織かわからないので、会社に入って、どんなことをしているか見てから決める」など、知らない・理解していないからこそ、自ら調べて加入するか否かを判断したいという意思を述べた学生が理数系では比較的多かった。

5　おわりに

本研究会では、将来の労働組合運動を担うべき若者が、労働組合に対してどのような認識をもっているのかを把握する目的で大学生アンケートを実施しており、現在も継続して実施している。冒頭で述べたように、理数系学部の学生に調査を実施した点が今回の調査の特徴であった。そこで得られた結果は、学生全体では前回調査から得られたものとほぼ同様であった。したがって、前回調査の有効性は高まったといえるだろう。ただし、運動側は、学生の出身学部によって認知度や知識に差異があることを考慮すべきである。

（おざわ　かおる・理事・新潟県立大学講師）
（なかざわ　しゅういち・常任理事・静岡県立短大講師）
（むらかみ　えいご・常任理事・日本大学准教授）

《総集編》たたかってこそ明日はある
ＩＨＩ（旧石川島播磨重工）の差別と40年のたたかい
勝利したリレーランナーたちの記録
明るい職場と平和をめざすＩＨＩ連絡会 編
定価：2520円（税込）
Ａ４判・216ページ
ISBN 978-4-7807-0432-7

この報告書には40年間の思想差別をついに打ち破った175人をはじめ多くの喜びの声であふれています。波乱に富んだたたかいの経過を「たたかいと交渉の経過」にまとめ、折々の写真や資料をはさみ、勝ちとった和解協定と差別再発防止協定を公表協定の限度いっぱいまで掲載しました。これまで多くのたたかいの貴重な到達点が公表されていないことを思えば、一部を除きほぼ完全に公表できることもこの若いの画期的な水準を示すものです。
さらにＩＨＩの真常な労務管理の実態を示す「ｚｃ計画」「個別管理計画」などの資料、労働委員会の命令や協定なども収録しました。――「発刊にあたって」より

本の泉社　www.honnoizumi.co.jp　TEL.03-5800-8494　FAX.03-5800-5353